

# 令和 5 年度事業報告書

令和 5 年（2023 年）4 月 1 日～令和 6 年（2023 年）3 月 31 日

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

はじめに

令和 5 年度は財団設立から 11 年目、公益財団法人認定から 10 年目の年となり、引き続き定款に基づく事業を展開した。前年度までの 3 年間は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業実施には様々な制約があったが、2023 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが感染症 5 類に移行したことにより、受講生の現地集合により対面で実施するプログラムや、地元住民との交流を含めたプログラムの再開が可能となった。また、教育手法として昨年度より導入したケースメソッド手法をさらに充実させ、講義、実習、ワークショップ演習を組み合わせた「知床ネイチャーキャンパス 2023 ステップアッププログラム」を実施し、独自の教育プログラムとしての確立を図った。加えてオンライントークセッションやオンライン連続講義を開催し、知床ネイチャーキャンパスを核とした教育実践とカリキュラムの確立、各種の広報事業の展開、調査研究事業など、定款に沿った公益目的事業の取り組みと公益法人制度に則った適切な組織運営に努めた。これら活動には、賛同いただいている全国の個人や企業・団体からの賛助会費、寄付金の支援を受けたほか公的助成制度の適用を受けることができた。

## I 公益事業に関する報告

【1】 知床自然大学院大学を開設する学校法人設立の準備、及び知床自然大学院大学の設置あるいは誘致の準備をする事業（定款第 4 条第 1 項）

### （1）知床自然大学院大学計画の策定と専門委員会

野生生物と人間社会との間に生じた様々な問題を解決し、真の共生を実現する専門家を養成する高等教育研究機関（「知床自然大学院大学」と称する）を、設立目的に沿った幅広い形態の教育機関と位置づけ、教育体制や教育課程、教育手法や具体的内容の検討を、教育実践を通して行った。設立を目指す教育機関では保護管理の現場教育に重点を置くこととしている。現場が抱える課題解決や地域の特性に即した保護管理能力に必要な教育プログラムの検討と具体的実践を目的に 2016 年度より「知床ネイチャーキャンパス」を毎年実施している。2023 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことから、4 年ぶりに受講生が知床現地に集合して交流するプログラムや、地元住民が参加交流するオープンキャンパスの開催が実現できた。2023 年度の「知床ネイチャーキャンパス 2023・ステップアッププログラム」は Part 1 エゾシカ管理と Part 2 ヒグマ管理の二つのプログラムとして実施

した。それぞれのプログラムは、オンデマンド講義の受講とケース教材の事前学習、オンラインによるケースメソッド授業、現地実習と演習の3部構成で実施し、まとめの発表とディスカッションは地元住民や関係者を交えたオープンキャンパスとして実施した。昨年度から取り組んだ新たな教育プログラムであるケースメソッド手法の導入をさらに進め、新たな教材として「エゾシカ管理最前線」を作成した。これら実践教育活動を通して知床で行う教育プログラムの確立を進めた。

計画策定専門委員会は、保護管理を専門分野とする大学教授など13名の委員と3人のオブザーバーで構成されている。令和5年度は知床ネイチャーキャンパスの開催について開催内容とその結果の報告を随時行い、財団活動について意見、評価と助言求めた。また、今後の教育活動のあり方など将来ビジョンについても前年度から継続した検討を行い、次回の専門委員会論議へ向けた資料作成を行った。

#### <知床自然大学院大学計画策定専門委員>

委員長	梶 光一	東京農工大学名誉教授・財団理事	委員	中川 元	元知床博物館館長・財団業務執行理事
副委員長	中村太士	北海道大学大学院農学研究院教授	委員	松田裕之	横浜国立大学総合学術高等研究院特任教授
委員	小林万里	東京農業大学生産学部教授	委員	横山真弓	兵庫県立大学自然環境科学研究所教授
委員	桜井泰憲	北海道大学名誉教授	委員	吉田正人	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
委員	鈴木正嗣	岐阜大学応用生物科学部教授	オブザーバー	大泰司紀之	北海道大学名誉教授・財団顧問
委員	敷田麻実	北陸先端科学技術大学院大学教授	オブザーバー	渡辺綱男	元環境省自然環境局長・財団顧問
委員	曾野知雄	レスコム北海道合同会社代表	オブザーバー	田中俊次	東京農業大学名誉教授・財団代表理事

#### 計画策定と事業実施に関連した委員・研究者との意見交換、関係会議出席

令和2年度にスタートした「野生動物管理教育プログラム検討会」は、令和5年度2回の意見交換会が専門家と農水省、環境省担当者によって開催され、当財団理事や専門委員が委員として参加した。その中でコアカリキュラムの実装と大学間連携や、認定制度について議論され、野生動物管理の人材養成体制の実現へ向けた検討が進められた。認証制度については「野生生物と社会」学会の2022年度大会の中でも議論され、その内容の学会誌掲載準備が進められた。その他、知床世界自然遺産地域専門委員会をはじめとする、知床の保全や野生動物に関わる各種委員会、希少種保護に関する検討会等に理事や専門委員が委員として参加し、野生生物との共存策や必要な管理・政策等について議論を行い、当財団の教育フィールドである知床地域の保全や活用、価値の向上について意見交換を行った。

#### (2) 地元自治体、地元環境団体、国や道の地元機関との連携協力体制の継続

地元自治体や、地元で環境保全や教育に関わる活動を行う団体、国や道の知床の保全に関わる現地機関、道内の環境団体等との連携体制の継続に努めた。斜里町とは4月に選任された山内浩彰新町長と役員が面談、当財団の理念・目的、活動等について

説明し、知床地域の保全や教育活動について意見交換を行った。10月には知床ユネスコ協会の3役との意見交換会を行い、知床地域4町の高校生など若年層を対象とした教育活動や、世界遺産登録20周年へ向けた事業の連携等について意見交換を行った。斜里町環境課や環境省の知床国立公園事務所、林野庁の知床森林生態系保全センターには、知床ネイチャーキャンパスの現地実習で、職員の講師派遣や実習指導に協力をいただいた。公益財団法人知床財団には、知床ネイチャーキャンパスの各プログラムでの講師派遣や現地実習の指導をはじめ、ケース教材作成など準備段階から協力をいただいた。ほか地元の諸団体にも知床ネイチャーキャンパスの実習指導協力をいただいた。北海道とは副知事ほか幹部職員と役員が面談し、活動の報告と協力要請を行った。北海道立総合研究機構には所属する研究職員の講師派遣協力をいただいた。その他、北海道内外の環境NPO等とはネットや刊行物を介した情報共有を行ったほか、調査研究分野でも指導協力をいただいた。

### (3) 教育実践活動資金及び教育機関設立に向けた資金確保の取り組み

教育機関設立へ向けた準備や知床ネイチャーキャンパス等の教育実践活動、人材養成と教育機関設立の必要性を訴える普及啓発活動に必要な活動資金、及び知床における教育機関設立のための資金獲得へ向けた取り組みを継続し、寄付金の拡大等を前年度に理事会内に設置した資金獲得ワーキンググループを中心に取り組んだ。2023年度の知床ネイチャーキャンパス各プログラムの実施とその普及啓発活動に対しては、北海道の令和5年度地域づくり総合交付金の助成を得ることができた。

## 【2】知床自然大学院大学が必要であることを広く世の中に訴えて賛同者を募る広報事業、及びそのための調査研究事業（定款第4条第2項）

### (1) 「知床ネイチャーキャンパス」の開催

当財団が目指す教育機関の具体的教育内容が見える形で示し、野生生物との共生を実現する人材養成の必要性や必要な能力、養成のための現場教育の実際について理解を広めるために、令和5年度は5つのプログラムを開催した。

#### ① 「ステップアッププログラム」Part1：エゾシカ管理

エゾシカの生態と管理について基礎的知識を学ぶオンデマンド配信講義を令和5年8月10日～9月15日、新たに制作したケース教材「エゾシカ管理最前線」を使用したケースメソッド授業を9月16日、17日に開催。9月27日～30日には現地知床での実習・演習を行い、4名の講師とその他実習講師とともに、17名の参加者が知床におけるエゾシカ管理の実際を学んだ。

#### ② 「ステップアッププログラム」Part2：ヒグマ管理

ヒグマの生態と管理について基礎的知識を学ぶオンデマンド配信講義を令和5年

9月8日～10月20日、昨年度に制作したケース教材「ヒグマ対応最前線」を使用したケースメソッド授業を10月21日、22日に開催。10月28日～31日には現地知床での実習・演習を行い、5名の講師とその他実習講師とともに、14名の参加者が知床におけるヒグマ管理の実際を学んだ。

### ③知床トーク「野生動物と私たち～つきあい方の過去・現在・未来」

ステップアッププログラムのPart2：ヒグマ管理開催中の令和5年10月28日、当財団理事である梶光一・兵庫県森林動物研究センター所長を講師に迎え、知床第一ホテル大会議室で講演会を行った。受講生や地元住民など41名が参加し、トークや意見交換を通じて、野生動物との共存について理解を深めることができた。

### ④オンライン特別連続講座「ワイルドライフマネジメント」

令和6年1月より、当財団理事である梶光一東京農工大学名誉教授・兵庫県森林動物研究センター所長を講師に、ZoomとYoutube liveを併用した無料のオンライン講座を開催している。当初はZOOMのみでの開催計画だったが、短期間に定員を超過したため、YouTube Liveを併用することにしたが、こちらもすぐに定員を超えてしまい、受講者管理の問題もあったため申込者数180名で打ち切った。1月からほぼ隔週月2回のペースで実施し、講義や活発な質疑応答が行われており、各回の平均的なアンケート回収数は70名程度で安定している。毎回アンケート形式による事後質問を受け付け、その回答をブログページで公開し、配信を見逃した受講生向けの補講期間を設けるなどの受講生のフォローアップも行なっている。(令和6年7月まで開催する)

### ⑤知床ネイチャーキャンパス presents オンライントークセッション「研究するってどういうこと？～知床をフィールドにする研究者たち」

令和6年2月3日、知床をフィールドに研究を行ってきた若手研究者3人のトークと、研究することについて考える意見交換の時間を設けた。Zoomによるオンライン開催で、北海道、宮城、東京、滋賀、大阪、沖縄など全国各地のほか、韓国、ドイツ、モンゴルから65名の参加者があり、好評を得ることができた。

## (2) 札幌、首都圏の賛助会員・支援者の会の活動、高校生の研修旅行の指導、その他の活動など

### ① 札幌圏・首都圏での活動

札幌圏で知床自然大学院大学設立財団を応援する市民の会「札幌シャチの会」、首都圏の役員、支援者による「首都圏の会」による活動を行った。2025年の知床世界自然遺産登録20周年に向けた事業を札幌圏・首都圏の役員、賛助会員が中心になり検討を行った。3回のオンライン会議を開催し、若者主体に継続性のある企画を検討、仮称「知床会議」として2024年度事業の中で計画を進めることとした。首都圏

の会ではメールによる会員への情報提供や 9 月に代々木公園で開催された「北海道産直フェア」での PR 活動を実施、山口児童文化研究所をはじめとする首都圏の支援者、賛助会員との交流を深めた。

## ② 京都市立西京高校生の研修旅行コーディネート

同校からの要請受け、令和 6 年 3 月 4 日、1 年生 33 名が参加する北海道研修旅行の知床滞在時におけるフィールドワークとワークショップのコーディネート及び現地指導を行った。同校の希望でテーマを『「ヒグマとの共存」ってなに？～知床の未来について考えよう～』とし、知床財団で野生動物対策を担う伊集院彩暮さんの講義、知床自然センターオリジナル映像作品「THE LIMIT」の鑑賞、ヒグマ対策用ごみステーション「とれんべア」の見学などを行った。また「ヒグマとの共存のかたち」を考えるワークショップを開催し、生徒たちの発表後、中川業務執行理事、地元住民の高木唯さんが講評を行った。なお、事前学習として 1 月 25 日に、中川業務執行理事が「知床の生態系～ヒグマの生態を中心に～」、高木唯さんが「ヒグマと地域社会」と題したオンライン授業を行った。

研修旅行で知床を訪れる高校生や地元高校生をはじめとする若年層への教育普及に幅広く関わることで、知床の保全を担う人材育成を行うと共に、将来の野生生物保護管理人材養成の基盤を固める位置づけとしたい。

## (3) 刊行物やネットを活用した広報活動

### ① ニュースレターの発行

令和 5 年度中にニュースレター（会報誌）を 2 回発行し、主催事業や連携事業の活動報告、保護管理や人材養成に関する情報等を掲載した。ニュースレターは賛助会員・支援者のほか、関係行政機関や保全関係団体、研究者、事業協力者、報道機関等にも送付している。

- ・ニュースレター 29 号（2023 年 7 月 1 日発行）A4 版 14p  
内容：知床ネイチャーキャンパス 2023・ステップアッププログラムの開催について、知床ネイチャーキャンパス presents オンライントークセッション 2022 の開催報告、知床ネイチャーキャンパス-3STEP で学ぶヒグマ管理-の開催報告、令和 4 年度（2022 年度）事業報告他。
- ・ニュースレター第 30 号（2023 年 12 月 20 日発行）A4 版 12p  
内容：知床ネイチャーキャンパス 2023・ステップアッププログラムの開催報告、アンケート結果報告、オンライン特別連続講座「ワイルドライフマネジメント」開催のお知らせ、知床ネイチャーキャンパス presents オンライントークセッション開催のお知らせ他。

### ② 知床ネイチャーキャンパス報告書の発行（2024 年 3 月 10 日発行）A4 版 24 p

令和 5 年度に開催した知床ネイチャーキャンパス（ステップアッププログラム

part1: エゾシカ管理、Part2: ヒグマ管理、オンライントークセッション) について、開催プログラムと開催結果、講義や実習、ワークショップ内容を詳報した報告書を作成した。賛助会員・支援者のほか、関係行政機関や保全関係団体、研究者、事業協力者、報道機関等にも送付して活動成果の理解を広めた。

### ③ ネットを活用した広報活動

#### ・ホームページの運用

事業活動を紹介する主要な場としてホームページを運用し、行事の案内や活動の結果報告を掲載した。加えて、「野生生物との共存」「専門家の必要性」「育成する人材像」等について写真を使ったわかりやすい解説を掲載し、財団の目的や理念を紹介すると共に賛助会員募集や支援要請を行った。また、設立趣旨や定款・役員等の基本情報や、各年度の事業計画・事業報告、予算書・決算書等の情報公開、ニュースレター各号の公開をホームページの中で行った。

#### ・公式ブログの更新、SNS の活用

令和5年度は、ブログでは知床ネイチャーキャンパスをはじめとする当財団の行事案内、活動結果報告等のほか、地元知床地域のイベント紹介も行った。SNS の活用では設立財団 Facebook と X (旧 Twitter)、Instagram を継続運用し、行事案内や知床の自然・野生生物に関する情報や話題など幅広い情報提供と、ブログ記事への誘導を行った。令和5年度も各 SNS のフォロワー数は順調に伸びており、野生生物や人材養成に関心を持つ幅広い皆さんとの交流や情報交換の場として、また賛助会員や支援者とを繋ぐツールとして活用したほか、オンライン連続講座「ワイルドライフマネジメント」の質問への回答を掲載し、受講生へのフォローアップにも活用している。

### (4) パンフレット、行事案内チラシ・ポスターの活用、その他の広報活動

活動の理解と支援者の拡大を目的に昨年度作成したパンフレット「知床でワイルドライフマネジャーの養成を」や、過年度の知床ネイチャーキャンパス内容を紹介した冊子等を様々な機会に配布し、普及に努めた。また、知床ネイチャーキャンパスの参加者募集チラシやポスターをイベント毎に作成し広く配布した。

令和5年12月26日、公益財団法人公益法人協会主催によるシンポジウム2023「新たな公益法人制度を目指して」が東京・都市センターホテルで開催され、鈴木幸夫理事がパネリストとして登壇。野生動物の人間活動領域への侵出の急激な拡大、それに伴う社会ニーズ（対策を担う専門的人材）の増大に対応するため、人材育成モデル事業ともいえる「知床ネイチャーキャンパス」をはじめた活動の変遷を紹介し、公益法人が社会や環境の変化に柔軟に対応していくことの重要性とそれをサポートする制度の在り方などに関する提言を行った。

その他、知床の自然環境や野生生物、希少生物等に関する雑誌やネット企画の取

材に応じ、野生生物の保全と管理の重要性、人材養成の必要性、知床の教育資源としての価値とそれを生かした教育活動について触れ、普及啓発を図った。

## (5) 調査研究事業

前年度に引き続き人材養成のための教育プログラムや教育課程に関する資料の収集、特に人材養成に関する教育手法について資料収集と調査研究を行った。教育手法では、ケースメソッド法の野生動物管理教育への導入を前年度に続いて検討を進め、新たな教材資料の作成や知床ネイチャーキャンパスのプログラムの中でのケース授業の実践を行った。実施後の受講生アンケート等による評価を行い、その有効性を確認しながら手法の確立を図った。また、オンラインによるワークショップ演習の開催など、講義に加えて多様なプログラムへのオンライン手法の導入を検討した。これらの検討を基に、オンライン教育手法と、現場におけるフィールドワークや人的交流を主とした実習・演習との組み合わせによる効果的で新しい教育プログラム構築のための調査研究を進めた。また、環境省による令和5年度「オジロワシ・オオワシ保護増殖事業 越冬個体数等調査業務」を当財団の調査事業の一環として請け負い、道内各地の協力のもとに実施した。オジロワシとオオワシは絶滅危惧種鳥類として国内希少野生動植物種に指定されている。知床をはじめ北海道内各地のオジロワシとオオワシの生息状況を調査し、保護増殖のための基礎資料とすることを目的としている。調査は11月～3月の5ヶ月間、毎月1回の一斉調査を行い、両種の越冬個体数と分布の変化、越冬環境や餌資源等が詳しく調べられた。現地調査には道内各地で鳥類調査や保護活動を長年担ってきた団体やグループのメンバーが担い、道内の150を超える調査区で実施された。希少野生生物の保護管理には広域的なモニタリング調査が不可欠であり、地域でこれを担う人材の養成とネットワーク調査体制の継続が重要である。本調査により、希少種保護のための基礎資料が得られたことに加え、道内各地域で「野生生物保護管理」の現場を担う地元メンバーと調査グループのネットワーク体制がさらに強化され、当財団が目的とする野生生物と人との共存の重要性と人材養成の必要性を広く発信する機会につながった。

## II 理事会及び役員等に関する報告

### (1) 理事会

#### ① 令和5年度第1回理事会

開催日時：2023年5月12日（木）午後7時より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催。

<決議事項>

第1号議案 「令和4年度(2022年度)事業報告書(案)」承認の件

第2号議案 「令和4年度(2022年度)決算報告書(案)」承認の件

第3号議案 令和5年度（2023年度）第1回評議員会（定時）の召集の件  
以上、原案通り可決した。

<報告事項>

1. 代表理事・業務執行理事の業務執行報告

② 令和5年度第2回理事会

開催日時：2023年9月19日（火）午後7時より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催。

<決議事項>

第1号議案 令和5年10月中に運転資金の借入れを行う件

以上、原案通り可決した。

<報告事項>

1. 代表理事・業務執行理事の業務執行報告

2. 今年度の知床ネイチャーキャンパスの開催状況について

③ 令和5年度第3回理事会

開催日時：2023年12月7日（木）午後7時より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催

<決議事項>

第1号議案 令和4年度決算書類の一部を修正する件

第2号議案 評議員会開催の件

以上、原案通り可決した。

④ 令和5年度第4回理事会

開催日時：2024年3月20日（水）午後2時より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催

<決議事項>

第1号議案 「令和6年度（2024年度）事業計画（案）」承認の件

第2号議案 「令和6年度（2024年度）収支予算（案）」承認の件

以上、原案通り可決した。

<報告事項>

1. 代表理事・業務執行理事の業務報告

2. 賛助会員の加入状況・募金の状況

3. 職員の動向について

<協議事項>

1. 今後の事業展開と財団運営について

⑤ 役員等に関する事項

2024年（令和6年）3月31日現在

<役員>



役職	氏名	就任年月日	担当職務	略歴
理事	田中俊次	2013年1月22日	代表理事	東京農業大学名誉教授
理事	中川 元	2013年1月22日	業務執行理事	元知床博物館館長
理事	上野雅樹	2013年1月22日	業務執行理事	知床ユネスコ協会理事
理事	家村充尋	2013年1月22日		知床ユネスコ協会会員
理事	石川 勝	2014年6月8日		元羅臼町教育委員長
理事	梶 光一	2013年1月22日		東京農工大学名誉教授
理事	笠井文考	2018年6月10日		会社社長・東京農業大学非常勤講師
理事	金澤裕司	2013年1月22日		北海道地方ESD活動支援センター ESDアドバイザー
理事	鈴木幸夫	2013年1月22日		会社員、在日外国人支援団体理事
理事	滝澤大徳	2014年6月8日		知床山考舎代表
理事	鳥居敏男	2023年6月7日		元環境省自然環境局長
理事	中田尊徳	2016年6月12日		会社社長 斜里青年会議所元理事長
理事	中村康江	2020年6月20日		主婦
理事	三宅雅久	2014年6月8日		北海道ふるさと会連合会理事
監事	木村耕一郎	2013年1月22日		斜里町議会議員・前議長
監事	廣川昭廣	2013年1月22日		税理士

※役員報酬を支給している常勤役員は1名。役員には当法人の事業・業務に関する必要な経費を、本人からの申請に基づき支給している

<顧問及び相談役>

役職	氏名	就任年月日	略歴
顧問	石 弘之	2020年6月20日	環境問題研究家

顧問	唐沢 敬	2020年6月20日	国際研究インスティテュート（IIS）代表 立命館大学名誉教授
顧問	松浦晃一郎	2013年1月22日	中部大学客員教授 元ユネスコ事務局長（第8代）
顧問	渡辺綱男	2013年1月22日	自然環境研究センター上席研究員 元環境省自然環境局長
相談 役	丹保憲仁	2013年1月22日	北海道立総合研究機構前理事長 北海道大学名誉教授（第15代総長）

※理事会の諮問に応じて当法人の事業・業務に対して指導・助言などのご支援をいただいている。

※報酬は支給していないが、理事会から委任された当法人の事業・業務に関する必要な経費を支給する場合がある。

※丹保憲仁相談役は、8月6日死去により退任

## （2） 評議員会

### ① 令和5年度第1回評議員会（定時）

開催日時：2023年6月7日（水）午後1時30分より

開催場所：ゆめホール知床会議室1（斜里町本町4）

<決議事項>

第1号議案 「令和4年度事業報告書」承認の件

第2号議案 「令和4年度決算報告書」承認の件

第3号議案 理事追加選任の件

以上、原案通り可決した。

<報告事項>

1. 賛助会員の加入状況及び募金の状況について

2. 今年度の活動展開について、ほか報告事項

### ② 令和5年度第2回評議員会（臨時）

（定款第20条に基づく「決議の省略」による）

評議員会の決議があったと見なされた日：2024年12月15日

<決議事項>

第1号議案 「財務諸表に対する注記」の一部を修正した令和4年度決算書類承認の件

以上、原案通り可決した。

### ③ 評議員に関する事項

2024年（令和6年）3月31日現在

<評議員>

役職	氏名	就任年月日	略歴
評議員	上野洋司	2013年1月22日	前知床斜里町観光協会会長
評議員	大泰司紀之	2020年6月20日	北海道大学名誉教授
評議員	午来 昌	2013年1月22日	元斜里町長
評議員	齋藤卓也	2020年6月20日	元北海道環境財団専務理事
評議員	鈴木眞吾	2013年1月22日	元斜里町教育委員長
評議員	土橋利文	2013年1月22日	斜里町商工会会長
評議員	深山和彦	2013年1月22日	ウトロ漁業協同組合代表理事組合長

※報酬を支給している評議員はないが、当法人の事業・業務に関する必要な経費を、本人からの申請に基づき支給している。

### Ⅲ 法人の運営状況について

#### (1) 事務局の状況

常勤の業務執行理事1名と非常勤の事務局長(理事)1名、常勤の事務局員1名、研究員1名による運営体制としている。また、必要に応じて代表理事及び業務執行理事が事務局における決裁業務を職掌しているほか、会計処理や決算においては理事2名が在宅で事務局をサポートしている。会計処理の正確性と効率化を図るため、平成26年度より会計ソフトを導入した。

#### (2) 知床ワイルドライフセンターの運用

事務局から徒歩圏の居住用家屋を借り受け、令和3年5月より、「知床ワイルドライフセンター」として開設し、研究者やボランティア等が滞在し活動する場とした。令和5年度は調査研究活動のため来町した大学院生等の利用があり、理事や研究員との交流があった。

#### (3) ファンドレイジングの状況(賛助会員と寄附金について)

	種別	予算 (件数)	予算(金額)	実績 (件数)	実績(金額)
賛助会員	個人	200	1,000,000	91	455,000
	団体	15	150,000	6	60,001
	法人・	60	2,400,000	32	1,360,000

	法人特別				
	小計	275	3,550,000	129	1,875,001
一般寄附金		---	4,300,000	43	3,184,857
管理指定寄付金				4	329,510
	合計	---	7,850,000		5,389,368
設立資金	目標額		80,000,000	1	130,000

(単位：円)

賛助会員の新規募集と寄付金の要請は、資金獲得ワーキンググループを核に取り組んだ。役員及び事務局からの文書依頼やパンフレットの送付による要請も行った。加えて、主催事業等でのパンフレット配布やホームページの活用、SNS を利用した広報活動を行った。令和 5 年度は新規賛助会員の加入を得た一方で、高齢等により会員継続されなかった会員があった。寄付金収入は前年度に実施したクラウドファンディングに該当する活動が R5 年度には実施することができず、通常の寄附金活動に止まったため、前年の 3 分の 1 程度となった。

**【付属明細書】**

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

以上